

BATHING AGENT

特許公報番号 JP5043449 (A)
公報発行日 1993-02-23
発明者: FUJII AKIRA
出版人 FUJII AKIRA
分類:
一国際: A61K8/00; A61K8/97; A61K36/18; A61Q19/10; A61K8/00; A61K8/96; A61K36/18; A61Q19/10; (IPC1-7): A61K7/50; A61K35/78
一欧州:
出願番号 JP19910288240 19910814
優先権主張番号: JP19910288240 19910814

要約 JP 5043449 (A)

PURPOSE: To obtain a bathing agent having effects on improvement in symptoms of dermatopathy such as atopic dermatitis by blending Cnidii Rhizoma extract powder with riboflavin. **CONSTITUTION:** A bathing agent is obtained by blending Cnidii Rhizoma extract powder capable of promoting blood circulation and moderating pain and riboflavin without any side effects as a colorant in bathing agent ingredients. The resultant product in an amount of about 15g is introduced into 180-200l bath water for use. The water holding power of the epidermis is increased to exhibit great effects on improvement in skin symptoms. The bathing agent assumes yellow beautiful color in dissolution and can extremely safely be used without fear of bad effects on human bodies due to no toxic tar-based coloring matters contained at all.

esp@cenet データベースから供給されたデータ — Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-43449

(43)公開日 平成5年(1993)2月23日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/50		9051-4C		
35/78	C	7180-4C		

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21)出願番号 特願平3-288240

(22)出願日 平成3年(1991)8月14日

(71)出願人 391042977

藤井 侃

富山県富山市花園町1丁目1番7号

(72)発明者 藤井 侃

富山県富山市花園町1丁目1番7号

(54)【発明の名称】 入浴剤

(57)【要約】

〔目的〕 アトピー性皮膚炎などをはじめ、様々な皮膚病の症状改善に効力があり、かつ、人体に与える弊害の懸念がなく極めて安全に使用できる入浴剤を提供することにある。

〔構成〕 溶剤成分に少なくともセンキュウエキス散とリボフラビンとを配合してあることを特徴とする。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 浴剤成分に少なくともセンキュウエキス散とリボフラビンとを配合してあることを特徴とする入浴剤。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【産業上の利用分野】 この発明は、アトピー性皮膚炎などをはじめ、様々な皮膚病の症状改善に効力のある入浴剤に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 一般にアトピー性皮膚炎は、卵や牛乳のような食物あるいはダニやホコリなどによる一種のアレルギー症状と考えられているが、未だにはっきりとした原因は解明されておらず、成人よりは小児に多く、特に三才以下では五人に一人の割合で発症しているといわれる。その治療薬としては、従来の場合、抗炎症作用のある副じん皮質ホルモンの入った軟膏が使用され、また、アレルギー源となる食物を摂取しないように食事制限する治療法も行なわれており、症状改善にある程度の効果を挙げている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、副じん皮質ホルモンの入った軟膏の使用は、同ホルモンに皮膚の委縮や毛細血管の拡張などの副作用が多い。また、食事制限は子供の成長に悪影響を与える恐れがあるので、いずれの場合も万人向きの有効な治療薬、治療法とはいえず、日本人の食生活が西洋化されるにつれて、ハンバーガーやカレーライス、焼肉などを毎日でも食べたいと云う児童が増加しており、牛乳や卵、肉類などに偏った食事の傾向とも相俟つて、アトピー性皮膚炎に苦しみ続ける患者が多発している。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明者は、この点に着いて種々研究と実験を重ねた結果、アトピー性皮膚炎の患者が健康体に比べて皮膚の表皮の水分が少ないことに着目し、何等かの方法、例えば入浴療法によって副作用を伴わずに表皮の水分保持能力を高めることができれば、アレルギー源に対する皮膚の抵抗力が増すのではないかと考え、全く新しい入浴剤を開発することに成功したもので、浴剤成分に血行を促進し且つ痛みをやわらげるセンキュウエキス散を添加する共に、着色剤として副作用のないリボフラビンを使用した点が最大の特徴になっている。

【0005】

【作 用】 本発明の入浴剤を湯中に投入して浴用に供すれば、全く副作用を伴わずにアトピー性皮膚炎その他の皮膚病患者の表皮の保水力を増加し、症状の改善に多大な効果を発揮する。

【0006】

【実施例】 次に、本発明の代表的な実施態様の一例を詳

細に説明すると、入浴剤の主成分には、従来の浴用剤と同様に炭酸水素ナトリウムとホウ砂を使用し、これに10%以下のセンキュウエキス散および5%以下のパンクレアチンを混合する一方、保湿剤として適量のアロエエキス、ガイヨウエキス散、びぜんんにく乾燥エキス、ニンジン末、モモエキス散、カミツレ末、カイソウ抽出液等を加え、着色剤としては有害なタール系の色素を用いず日本薬局方のリボフラビン（ビタミンB2剤）を使用し、さらに着香剤として少量の香料を配合してある。

10 **【0007】** 製品の形態としては、上記の炭酸水素ナトリウムから香料までの13成分を日本薬局方製剤総則11散剤の製法により混合、包装、検査の後、一回分の使用量約15gを計り得る計量具を本品に添付するか、あるいは本品約15gを長方形の輪郭を有する袋体の内部に収納密封して分包したものが使用される。

【0008】 本発明の入浴剤は上記のような組成になっているので、浴湯約180～200リットルに対して本品約15gを投入し、これをよく攪拌して温浴すれば、湯中に溶出した各組成分のうち、炭酸水素ナトリウムは皮膚の脂肪や汗腺につまっている脂肪の汚れを乳化除去し、入浴後の清涼感を与えると共に、表皮の角質を軟化除去し肌をなめらかにする役割を果たす。更に、ホウ砂は弱アルカリ性でホウ酸と同様に弱い防腐力があり、皮膚を刺激せずに洗浄力を高めることができ、センキュウエキス散は体内の血行を促進し、痛みをやわらげる鎮痛作用がある。また、保湿剤として配合されたアロエエキス、ガイヨウエキス散、びぜんんにく乾燥エキス、ニンジン末、モモエキス散、カミツレ末、カイソウ抽出液等の漢方生薬類は、浴用の際に本来の優れた保湿作用のほか、各薬剤の成分に応じて皮膚の消炎、収れん、殺菌、鎮痛、血行促進、栄養補給などの作用効果を発揮する。一方、本発明の場合、香料と共に着色剤として配合した日本薬局方のリボフラビン（ビタミンB2剤）は、浴中に溶けた時に黄色の美麗な外観色を呈し、有害なタール系の色素を全く含まないので、人体に与える弊害の懸念がない。

【0009】 なお、上記浴剤の組成は、本発明の最も代表的な実施例による配合の一実施例を示したもので、この発明による入浴剤は、浴剤成分中にセンキュウエキス散とリボフラビンとが含まれておれば、必ずしも前記実施例の配合のみに拘束されるものではない。

【0010】

【発明の効果】 以上のように、本発明の入浴剤には、浴剤の成分に血行を促進し且つ痛みをやわらげるセンキュウエキス散を添加する共に、着色剤として副作用のないリボフラビンを使用してあるので、これを湯中に投入して浴用に供すれば、全く副作用を伴わずにアトピー性皮膚炎その他の皮膚病患者の表皮の保水力を増加し、症状の改善に多大な効果を発揮し、香料と共に配合したリボフラビン（ビタミンB2剤）は、浴中に溶けた時に黄色

(3)

特開平5-43449

3

の美麗な外観色を呈し、有害なタール系の色素を全く含まないため、人体に与える弊害の懸念がなく、極めて安

4

全に使用できる事とも相俟つて、皮膚病の治療に最適の入浴剤を提供し得るものである。